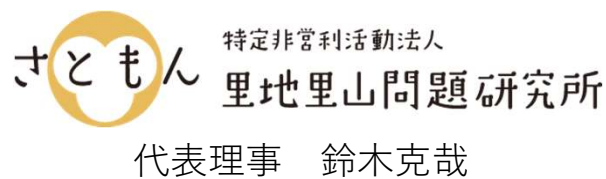


ニホンザルの保護・管理の基本 と地域での対策推進



1

自己紹介 (大学・県→市・民間)



- 出身：和歌山県
- 北海道大学大学院文学研究科修了 博士（文学）
- 青森県下北半島のニホンザル農作物被害問題の研究
 - 被害を引き起こすサルの生態調査
 - 住民意識・行動の調査
- 2005.4～2007.12 京都大学霊長類研究所 教務補佐員
- 2008.1～2015.3 兵庫県立大/兵庫県森林動物研究センター（兼務）講師/研究員
- 2015.4～2021.3 丹波篠山市農都整備課（現）
獣害に強い集落づくり支援員（非常勤嘱託職員）
- 2015.5～ 特定非営利活動 法人里地里山問題研究所
代表理事

2

サル対策を効果的に進めるためには

1. 個体数管理の計画（方針）を立て
捕獲実績を示しながら

2. 住民主体の対策をすすめる



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

ニホンザルの管理と対策 効果的な進め方

I. 管理の基本的な考え方

II. 効果的な進め方

① 現況把握

② 個体数管理（群れの状況に応じた捕獲手法の選択）

③ 住民が主体となった被害対策の推進

④ 役割分担と主体間の連携（都府県の役割）



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

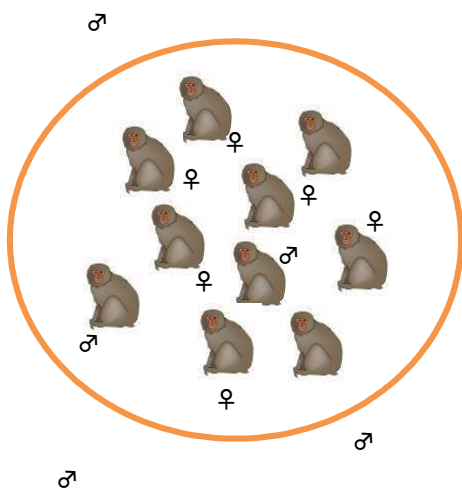
ニホンザル管理の 基本的な考え方



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

5

サルは昼行性で群れをつくって行動する



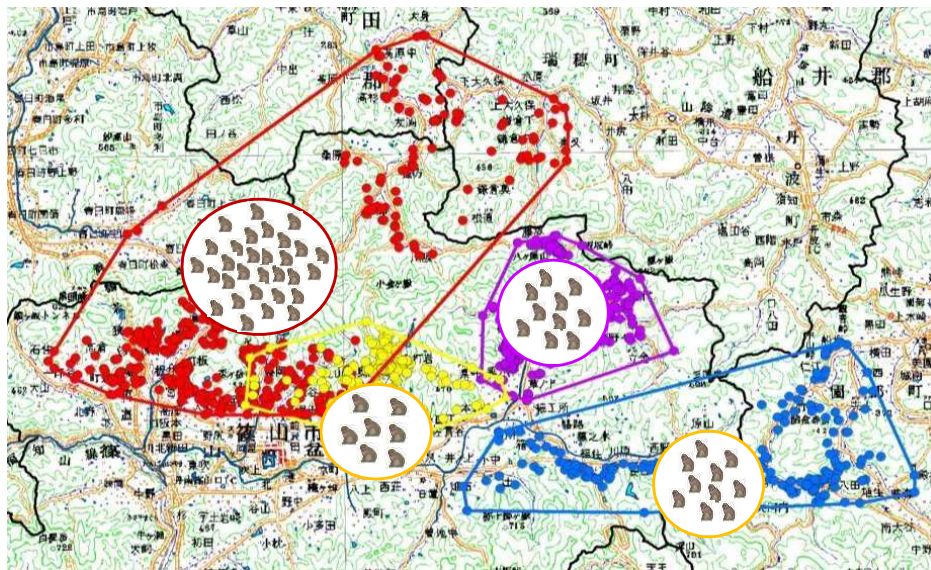
- 昼行性
- 群れを作る
 - 母系社会（オスは移出、メスは定住）
 - 群れサイズ: 平均40頭（10～100頭を超える群れも）
 - 行動圏を持つ
 - 群れにより特性が異なる



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

6

群れには行動圏があり、行動圏内にある集落を巡回している



さともん 特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

7

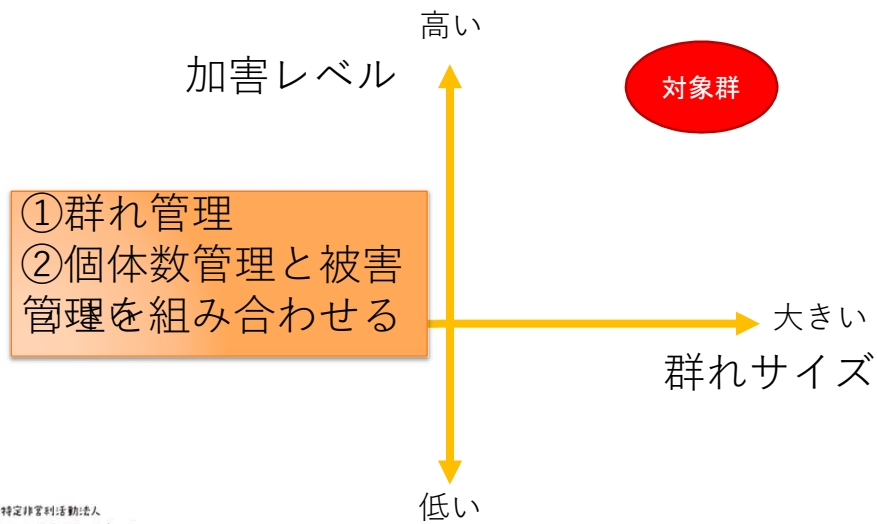
個体数を直接カウントできる
(精度の高いデータが得られる)



さともん 特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

8

群れにより特性が異なる



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

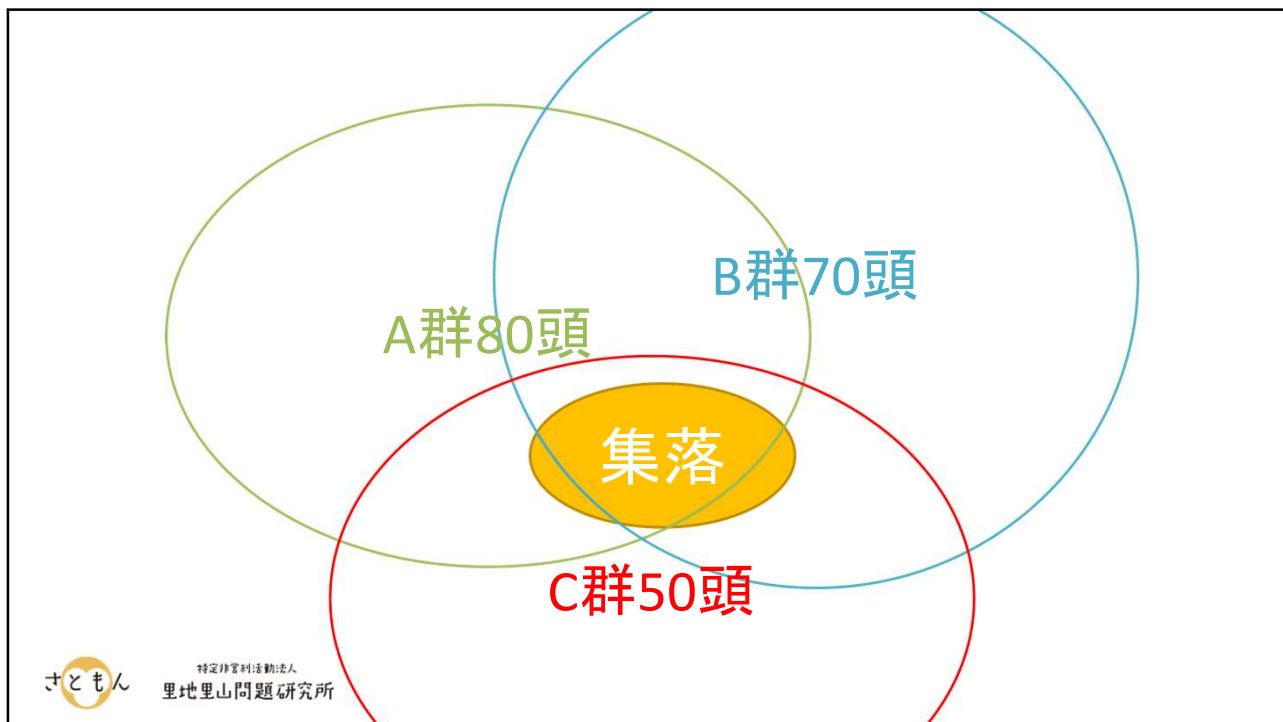
9

88頭捕獲したけれど



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

10



11

サル管理の効果的な進め方

1. 現況把握について

12

現況把握に基づく計画を

1. 生息状況

何群いるか? それぞれの群れの

①行動域、②個体数、③加害レベル

2. 被害状況

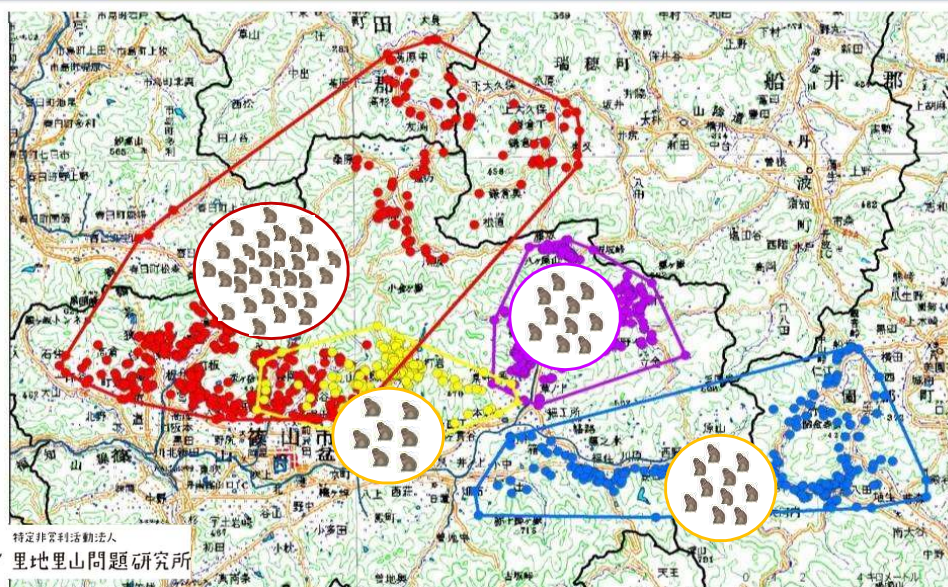
被害時期、被害作物の種類、被害量、被害発生範囲
(集落)、生活被害・人身被害の有無・程度



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

13

発信機を装着するといろいろな情報が分かるが・・・
いきなりは難しい（第2段階の現況把握方法）



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

14

大まかな情報収集（住民情報等）からはじめて
管理を強化すべき群れを選定する（第1段階）

生息状況の把握程度



保護・管理計画の策定/評価のためのモニタリング(都府県):
アンケート調査・出没カレンダー調査

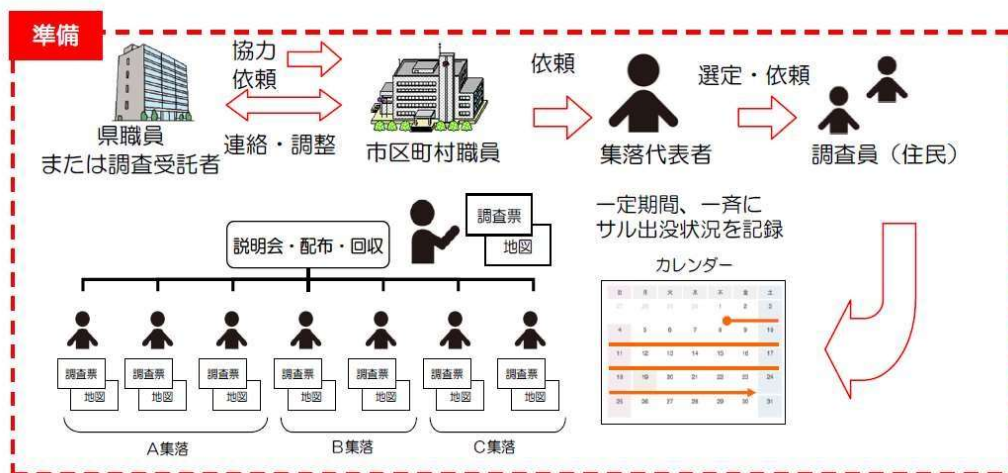
管理を強化しなければいけない群れに対するモニタリング(市町村):
発信機の装着

環境省 平成27年度 特定計画ガイドライン概要パンフレットより改変

15

環境省ガイドラインのモニタリングステップ

サル出没カレンダー調査

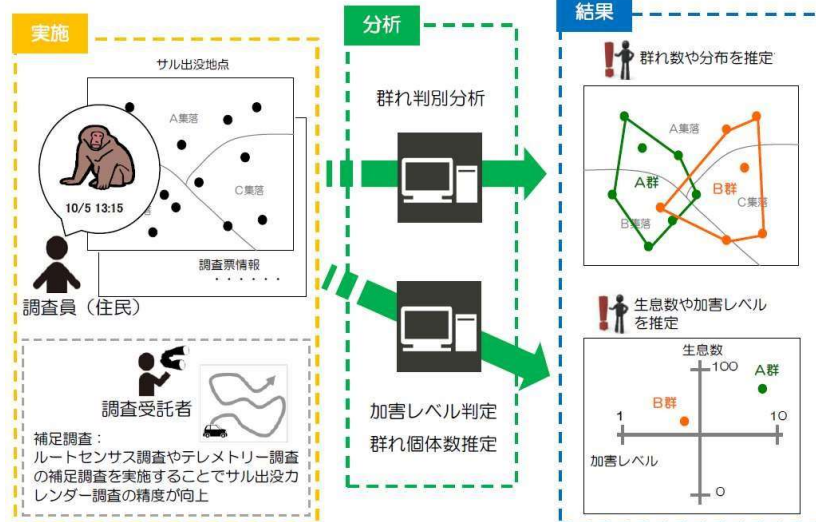


環境省「平成28年度ニホンザル対策モデル事業レポート」より(スライド作成: 榊野生動物保護管理事務所)

16

環境省ガイドラインのモニタリングステップ

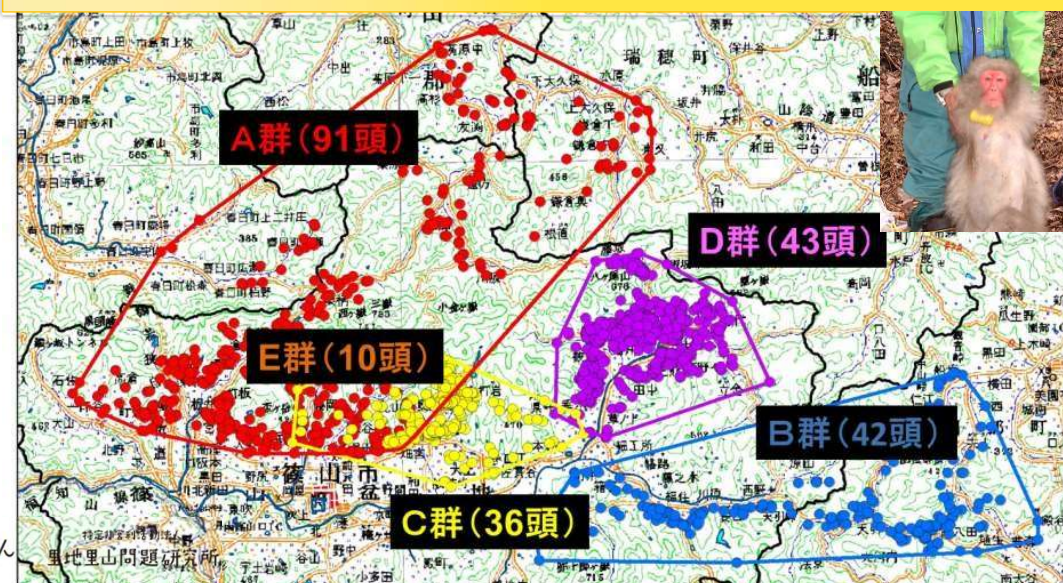
サル出没カレンダー調査



環境省「平成28年度ニホンザル対策モデル事業レポート」より(スライド作成: ㈱野生動物保護管理事務所)

17

優先的に対応が必要な群れに対しては、
発信機を装着して行動域や**個体数**・詳細な
加害レベルの把握をすすめる (第2段階)



18

サル管理の効果的な進め方

2. 個体数管理

群れの状況に応じた捕獲
手法の選択



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

19

ニホンザルの個体数管理～最近の考え方～

- ① 群れを特定し、群れの状況（個体数・加害レベル）に応じた手法選択
- ② 被害管理との組み合わせが不可欠

群れの全体捕獲

群れの排除

群れの部分捕獲

選択捕獲

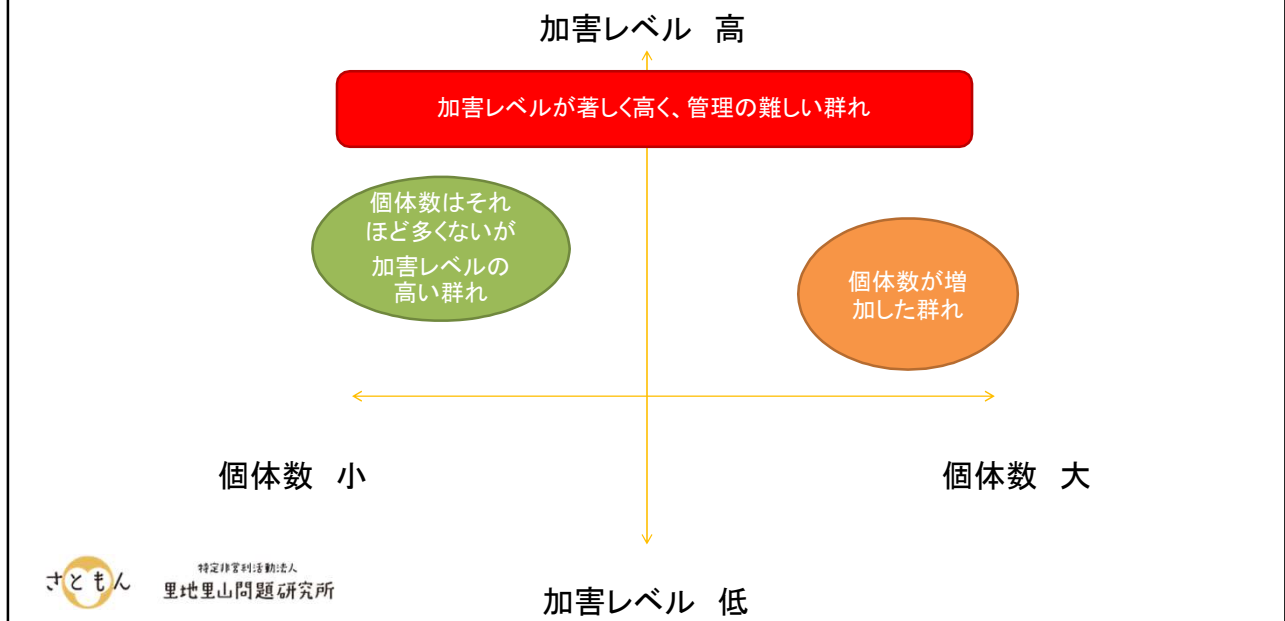
群れの存続を前提
被害管理との組み合わせ



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

20

ニホンザル加害群の性質に応じた捕獲手法を選択する



21

群れの全体捕獲

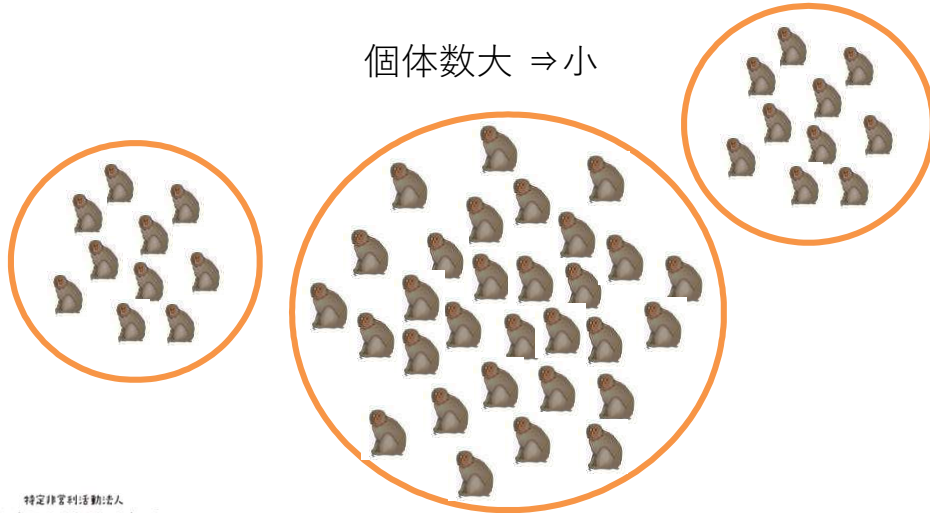


22

群れの部分捕獲

個体数が増加した群れ

個体数大 $\Rightarrow$ 小



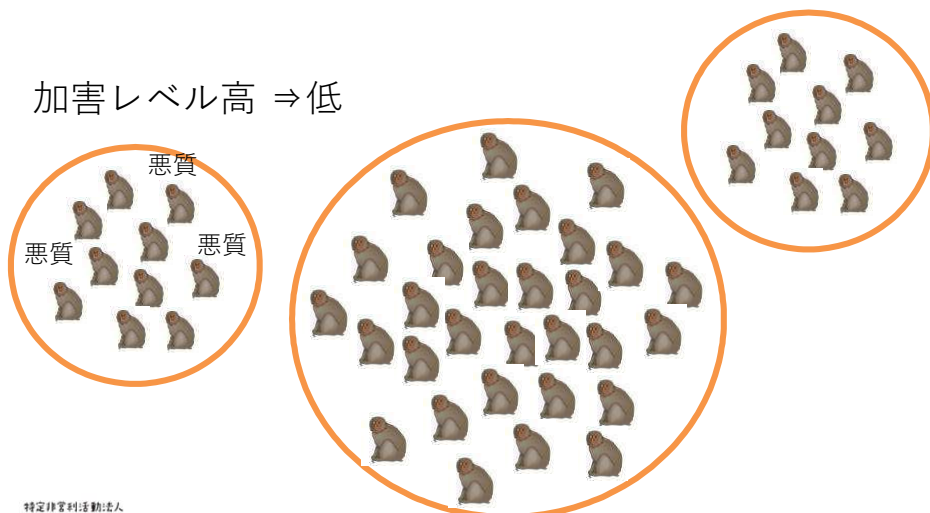
特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

23

群れの選択捕獲

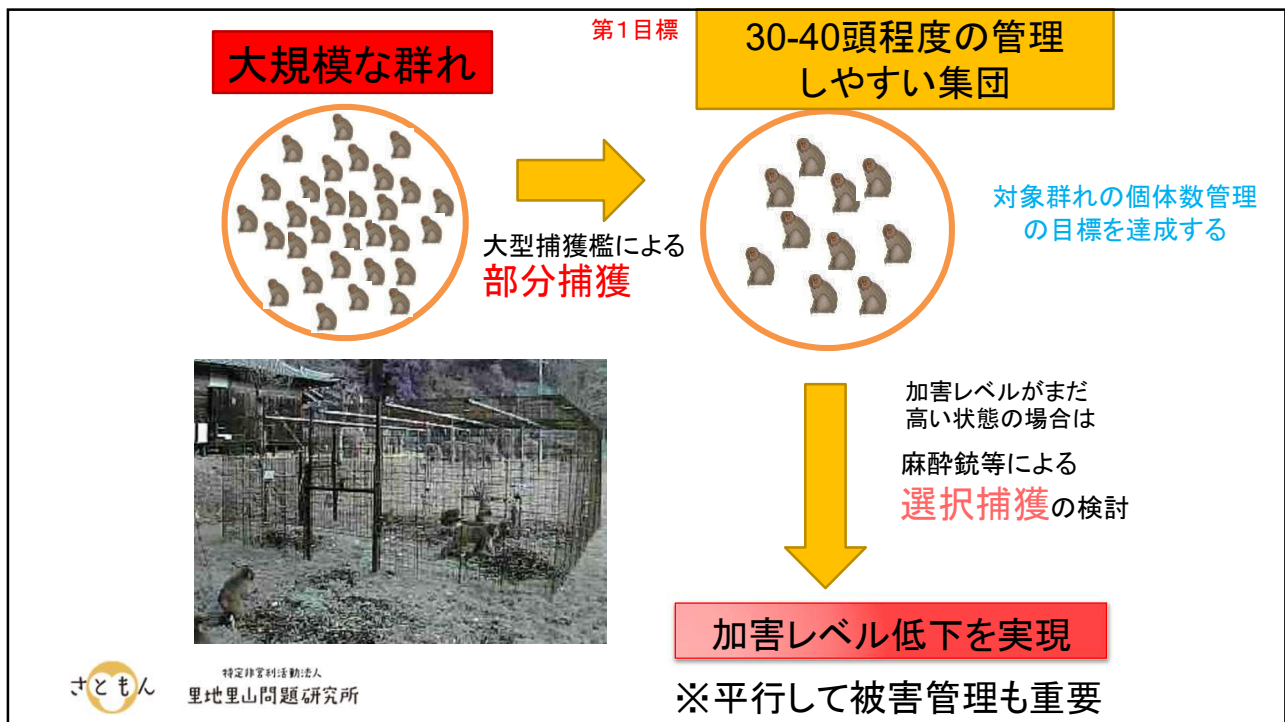
加害レベルの高い群れ

加害レベル高 $\Rightarrow$ 低

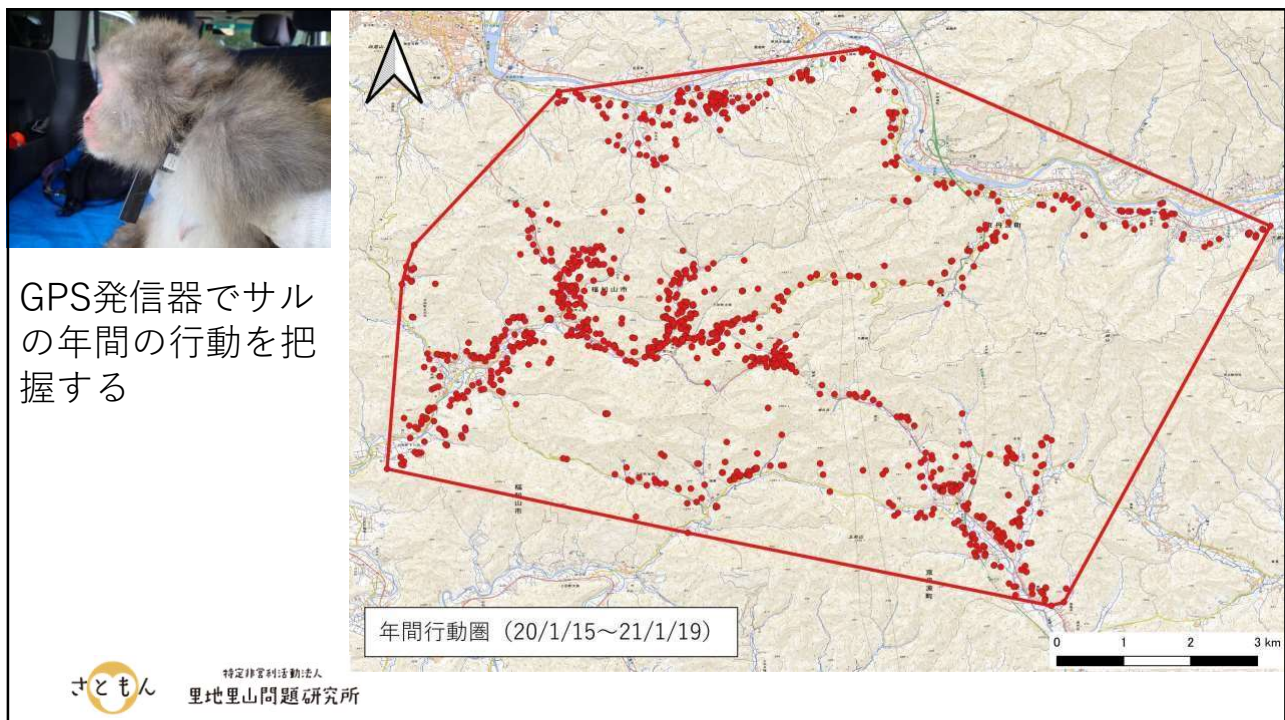


特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

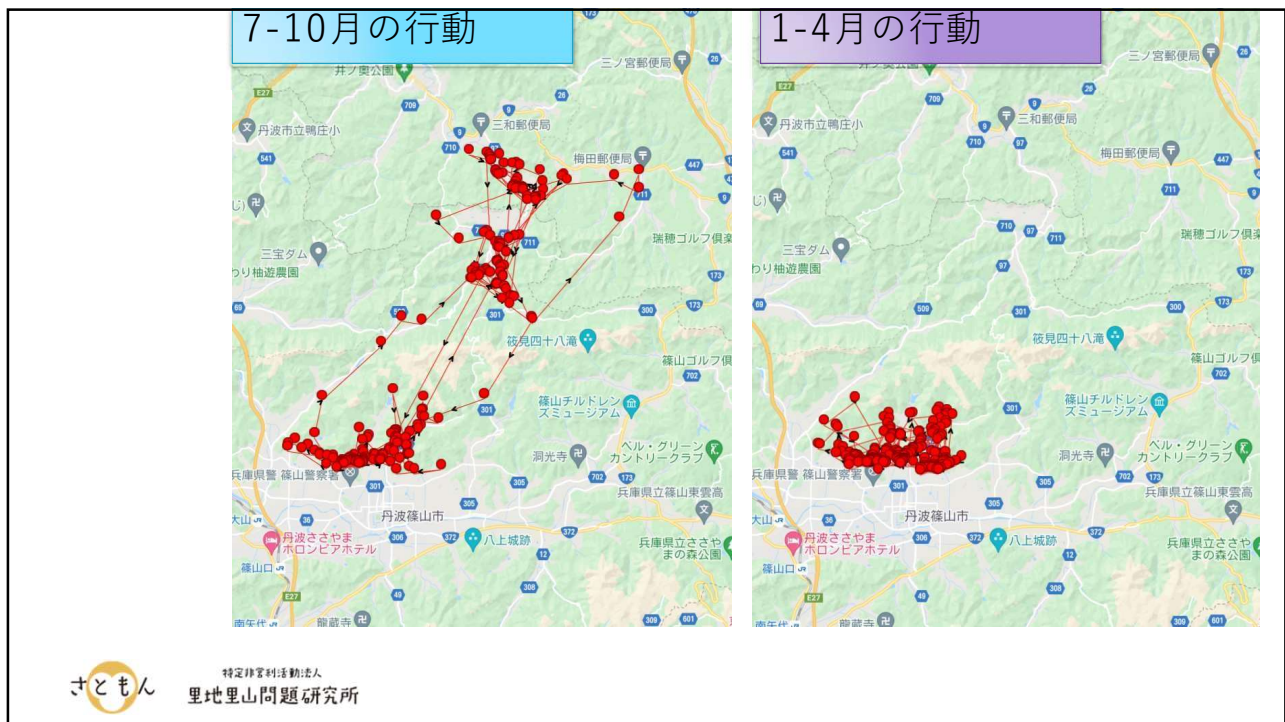
24



25



26



27

捕獲できなくなったら…

場所を移動する！

28

加害レベルの判定をすすめて**対策の優先順位**を
(生息場所、出没頻度、出没規模、被害内容から総合的に判定)

群れの状況のイメージ

レベル	Level	サルの群れの状況
0	Level 0	サルの群れは山奥に生息しており、集落に出没することはないので被害はない。
1	Level 1	サルの群れは集落にたまに出没するが、ほとんど被害はない。
2	Level 2	サルの群れの出没は季節的で農作物の被害はあるが、耕作地に群れ全体が出てくることはない。
3	Level 3	サルの群れは、季節的に群れの大半の個体が耕作地に出てきて、農作物に被害を出している。
4	Level 4	サルの群れ全体が、通年耕作地の近くに出没し、常時被害がある。まれに生活環境被害が発生する。
5	Level 5	サルの群れ全体が、通年・集落に出没している。生活環境被害が大きく、人身被害の恐れがある。人獣被害を減らすための被害防除対策の効果が少ない。

優先的に対応が必要な群れを選定
群れの加害レベルの具体的な判定方法は、ガイドラインの21ページを参照してください。

群れサイズ
個体数

生息状況
孤立or連続

捕獲オプションを選択

- ・ 群れ捕獲
- ・ 部分捕獲
- ・ 選択捕獲

環境省 平成27年度 特定計画ガイドライン
概要パンフレットより

29

ニホンザルの個体数管理

目的・根拠を明確に

(住民説明が出来る捕獲を)



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

30

サル管理の効果的な進め方

3. 住民が主体となった 被害対策の普及



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

31

住民主体の対策推進のために

- ① 100%確実に農地を守る手法を知る
- ② 追い払いの考え方を整理する
- ③ 集落単位の指導体制を整備する
- ④ 群れの位置情報の共有システムを構築する
- ⑤ モデル集落を選定or育成する
- ⑥ 効果的な研修プログラムの設計する
- ⑦ 現状把握のもとに全体普及戦略を立案する



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

32



サルにも有効な多獣種対応電気柵

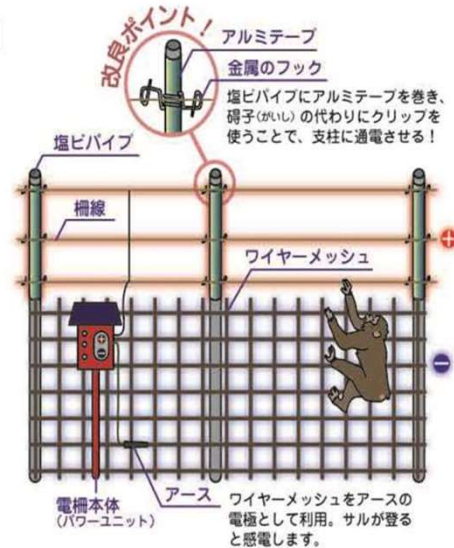
香美町考案

通電式支柱「おじろ用心棒」

鳥取県開発「シンシ短くん」を改良



兵庫県森林動物研究センターパンフレットより



33

効果的な電気柵を適切に設置すれば、農地は確実に守れる！



さともん

三重県農業研究所

三重県農業研究所

34

飛び込み防止のため、樹木や建造物から 3 m 以上離す



35

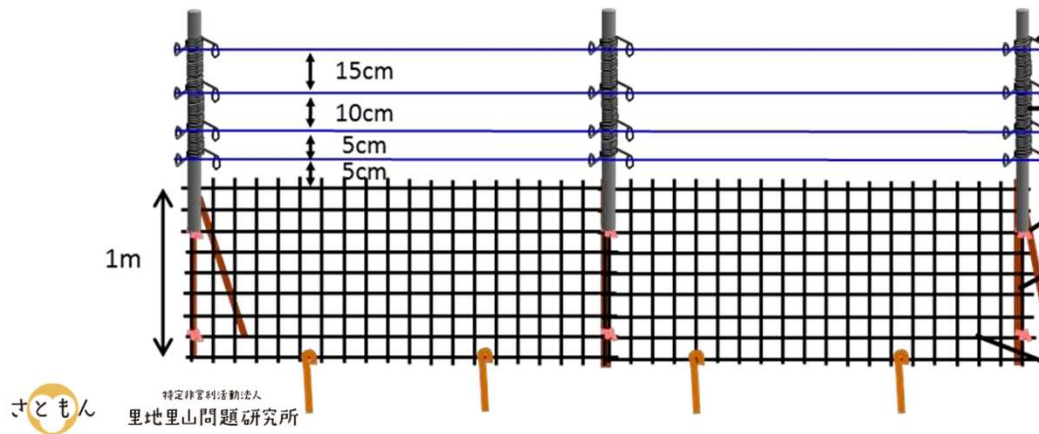


電気柵に触れずに中と外を行き来できるような張り方はしない
サルは3m飛ぶという前提で畑をチェック

36

サルが侵入できる隙間がないように設置する

メッシュと1段目の間は5cmに



37

設置後は定期的に電圧をチェック

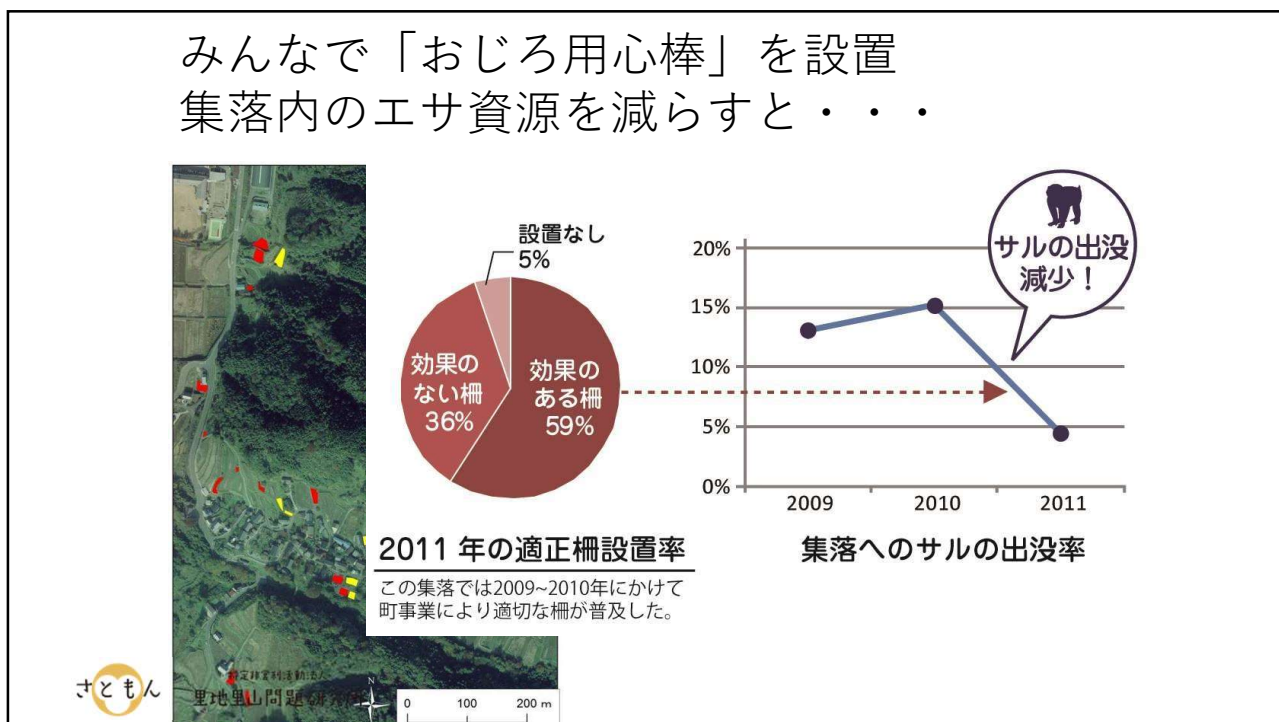


定期的に電圧を
測り、常時5000
V以上を目指し
ましょう

38



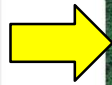
39



40

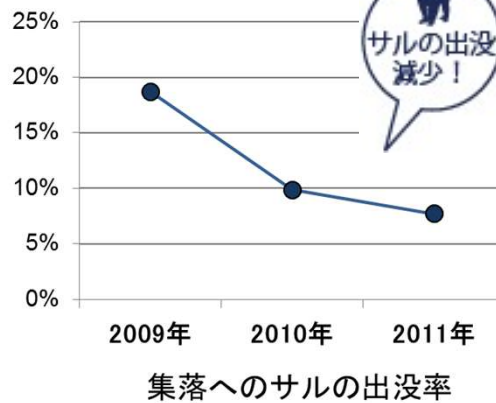
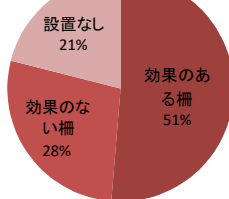
集落内のエサ資源を減らすと・・・

エサを減らすとあまり
執着しなくなる

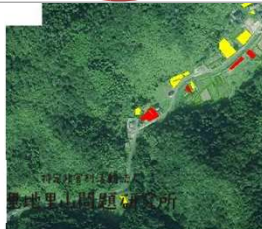


追い払いの効果が出
やすくなる！！

K集落における適正なサル用
防護柵の設置率(2011年)
用柵の設置率(2011年)

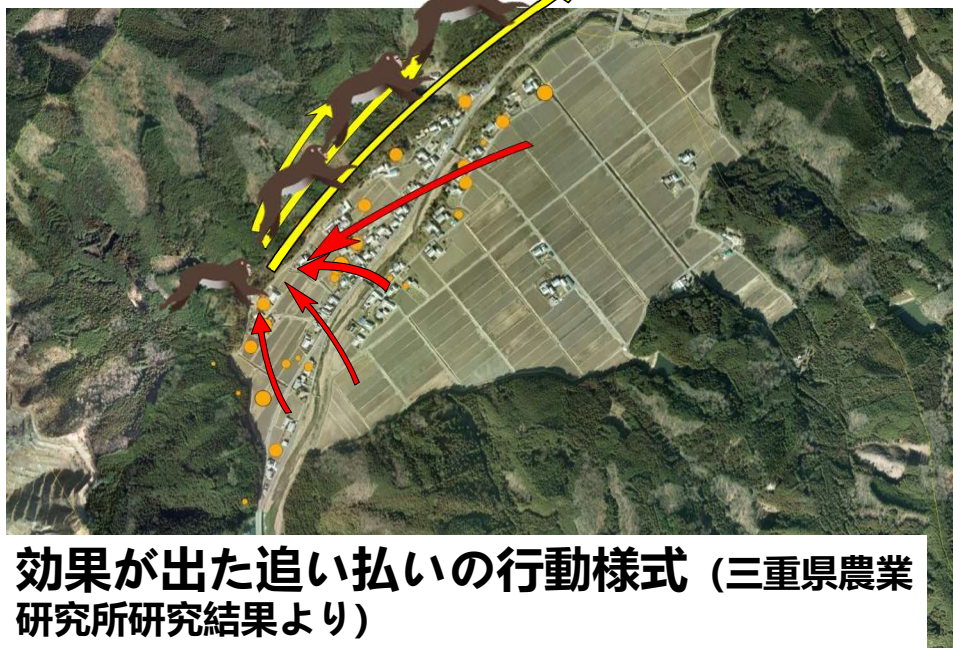


さともん



41

スライド作成: 兵庫県立大学 山端直人



42

集落ぐるみの「食べさせない」追い払い —効果をあげるための5か条—

1. サルの接近を把握し、待ち構えて追い払う。
2. 集落内で連絡をとりあってできるだけ多くの人で。
3. 個別に追い払うのではなく、サルが出没した箇所に集まってその日の追い払い作戦をたてる。
4. 無理に「追い返す」のではなく、いつものルートを見極めて「追い送る」
5. 群れが集落から出ていくのを確認して終了する



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

43

集落の対策を支援するサル対策出前講座（集落単位の指導）

【内容】

専門家による座学研修
追い払い技術指導（屋外）
地図を用いた追い払い作戦会議



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

44



45



46

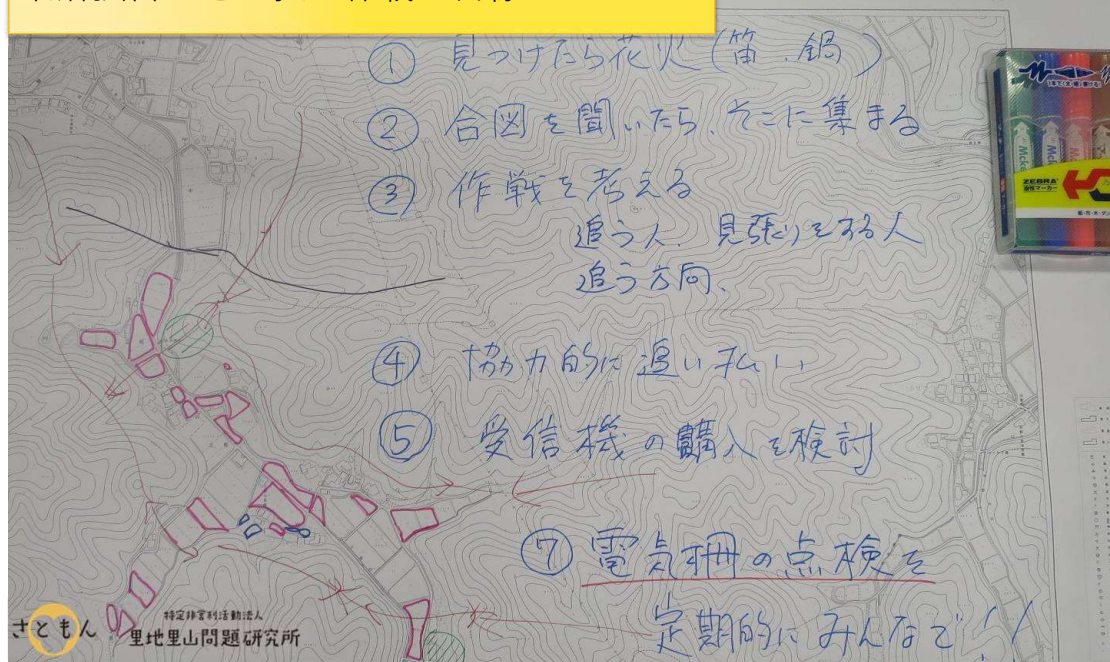


47

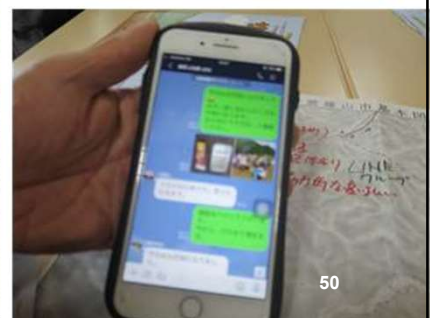


48

集落独自の追い払い作戦・目標をたてる



49



50

50

住民主体の対策推進のために

- ①100%確実に農地を守る手法を知る
- ②追い払いの考え方を整理する
- ③集落単位の指導体制を整備する
- ④群れの位置情報の共有システムを構築する
- ⑤モデル集落を選定or育成する
- ⑥効果的な研修プログラムの設計する
- ⑦現状把握のもとに全体普及戦略を立案する



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

51

サル管理の効果的な進め方

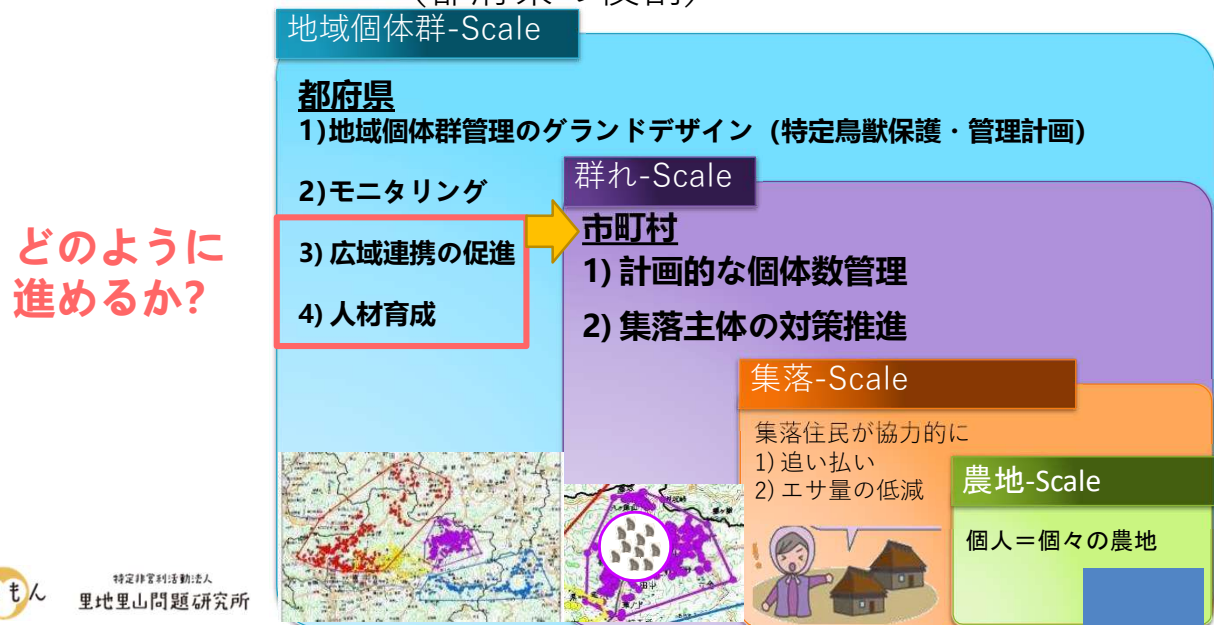
4. 役割分担と主体間の 連携（都府県の役割）



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

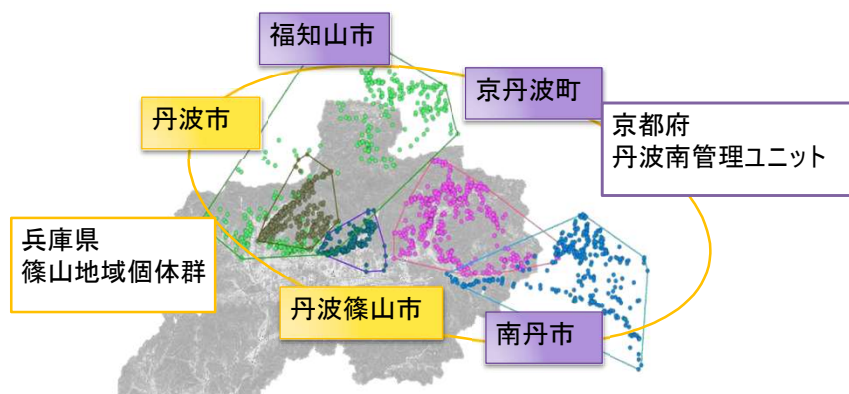
52

ニホンザルの管理：役割分担に応じた主体間の連携が必要 (都府県の役割)



53

事例：大丹波地域サル対策広域協議会設立 (H29年度～)



目的：

市町・府県域をまたがり広域に行動するサル群に対し、これまでの成果をふまえ各市町が連携して広域的・一体的に取り組むを行うことで、サル管理の効率化を図る。

54

大丹波地域サル対策広域協議会（H29年3月～）

○構成員

福知山市・南丹市・京丹波町・丹波篠山市・丹波市

○関係機関

京都府中丹・南丹広域振興局

兵庫県民局丹波農林事務所

京都府農林水産技術センター

兵庫県森林動物研究センター

NPO法人里地里山問題研究所

事業内容

□連絡会議で捕獲目標・対策状況共有

□実施隊向け研修会

□ICT新技術を用いた位置情報の提供

□被害防除のための研修会



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

55

農水省HP:鳥獣害対策コーナー新着情報！【動画】「鳥獣被害対策の取り組み事例」で紹介

現地レポート

ICT技術で
サル位置情報を配信
広域で対策

だいたんぼ
大丹波地域サル対策広域協議会



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

サルの詳しい説明はこちら → <https://satomon.jp/jugaisien/saruchi/>

56

大丹波地域サル対策広域協議会の主な事業

1. ICT新技術を用いた位置情報
の提供

2. 被害防除のための研修会

3. 実施隊連絡会議で捕獲 目
標・実績・対策状況共有

4. 担当職員向け研修会

住民向け

各集落でどのよう
に対策を推進
していくか

担当職員向け

各市町でどのよう
に対策を推進して
いくか



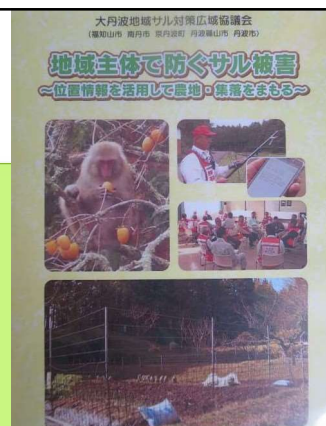
特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

57

令和元年度制作

大丹波地域サル対策広域協議会サル対策DVD

- ① サルイチの紹介
- ② サルイチの登録方法と使い方
- ③ 地域の追い払い優良事例
- ④ おじろ用心棒の仕組みと維持管理
- ⑤ おじろ用心棒の設置方法
- ⑥ 誘引物（放任柿）に取り組む
- ⑦ サルに強い集落づくりで地域活性化



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

58

広域連携のための実施隊（担当職員）連絡会議

平成29年度の実績

開催月	5月	7月	9月	11月	1月	3月
開催場所	丹波篠山市	丹波篠山市 + 総会	南丹市	丹波市	福知山市	京丹波町

令和元年度からは4回／年の開催



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所



59

行政職員向け研修 の実施

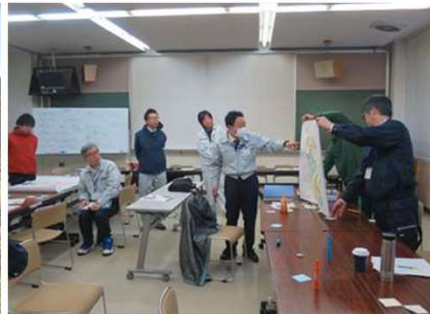
	日時	内容
2017年度		
第1回	9月27日	座学:「サル対策を効率的に進めるための行政(市町・府県)の役割」 実習:サルの性・年齢判別手法を学ぶ(ビデオ実習)
第2回	11月28日	座学:「100%確実にサルから農地を守る方法」 実習:きちんと指導できるようになる「効果的な電気柵の設置・メンテナンス方法」
第3回	1月10日	座学:「サルに効果的な追い払い」 実習:受信機を用いたサルの位置調査、追い払い実習
第4回	3月13日	座学:「獣害に強い集落づくりを考える モデル選定から地域活性化まで」 実習:意見交換(ワークショップ)
2018年度		
第1回	9月20日	座学:「サルに効果的な電気柵『おじろ用心棒』と低コスト化について」 ワークショップ:「南丹市のサル対策の現状と今後を考える」
第2回	11月27日	座学:「サルの個体数管理と効果的な捕獲方法～群れ捕獲・部分捕獲・選択捕獲～」 ワークショップ:「丹波市のサル対策の現状と今後を考える」
第3回	1月18日	座学:「地域が主体となったサル追い払いの指導方法について」 ワークショップ:「福知山市のサル対策の現状と今後を考える」
第4回	3月6日	座学:「地域主体の対策推進の目標設定と普及戦略について」 ワークショップ:「京丹波町のサル対策の現状と今後を考える」
2019年度		
第1回	10月31日	実習:受信機とアンテナを活用したサル位置情報の把握
第2回	1月28日	座学:「地域主体で進めるサル対策と普及の方法論」 ワークショップ:「普及用DVDをどう活用する？」



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

60

座学・ワークショップ・実習を取り入れた研修の様子



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

61

大丹波地域サル対策広域協議会の目指すこと 広域連携で…

- 1) 計画的な個体数管理（目標・実績共有）
- 2) 集落主体の対策支援推進
 - ✓大丹波サル位置情報配信システム（ICT新技術）
 - ✓出前講座、実施隊（行政職員）向け研修会

サルの群れを山の中に押し戻す！



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

62

ニホンザルの管理：役割分担に応じた主体間の連携が必要 (都府県の役割)

地域個体群-Scale

都府県

1) 地域個体群管理のグランドデザイン (特定鳥獣保護・管理計画)

2) モニタリング

3) 広域連携の促進

4) 人材育成

群れ-Scale

市町村

1) 計画的な個体数管理

2) 集落主体の対策推進

集落-Scale

集落住民が協力的に

- 1) 追い払い
- 2) エサ量の低減

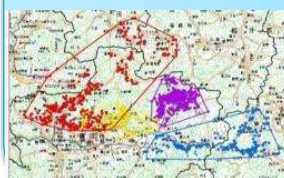
農地-Scale

個人＝個々の農地

どのように
進めるか？



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

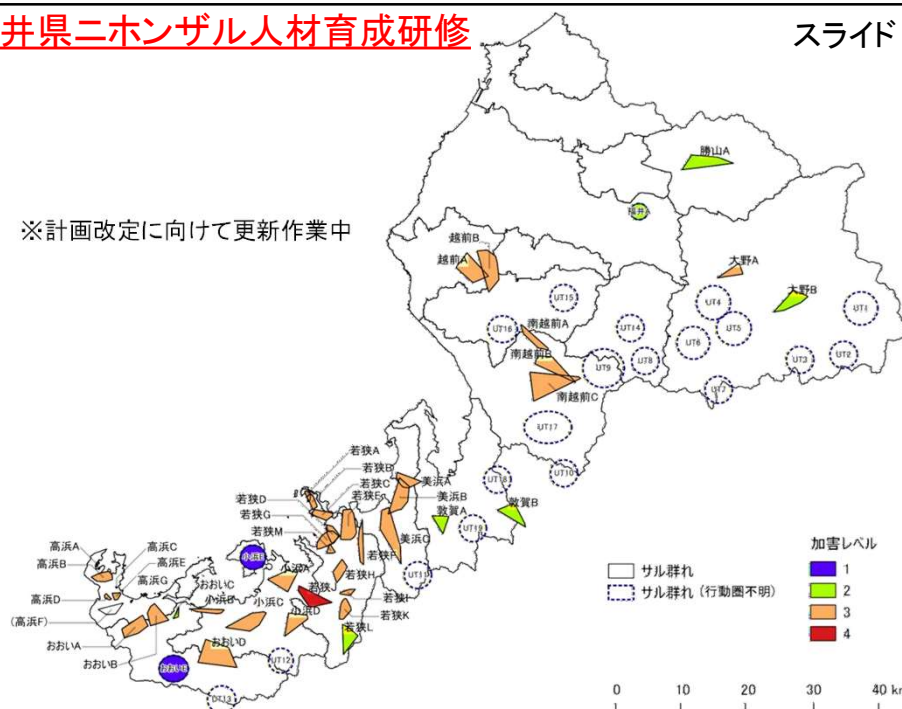


63

事例：福井県ニホンザル人材育成研修

スライド：福井県作成

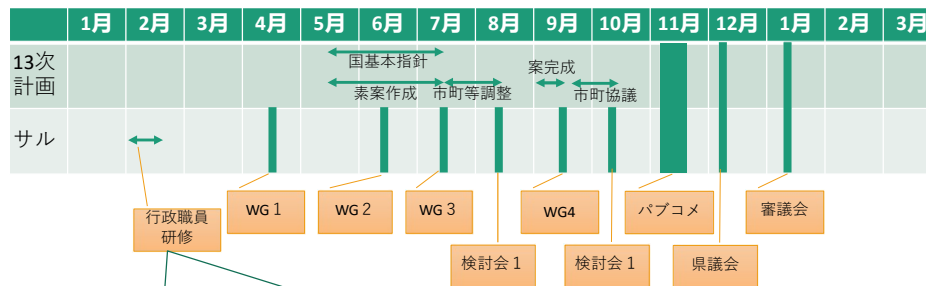
※計画改定に向けて更新作業中



64

事例:福井県ニホンザル人材育成研修

スライド:福井県作成



目的

- 行政職員の知識向上
- 連携体制の基礎構築
- 現場の意見の抽出

- 関係市町が連携した地域実施計画の策定とそれに基づく予算獲得と対策の推進
- 実効性のある計画策定

内容

- ①サル対策の基本〈講義+WS〉...現状確認、問題抽出
- ②被害対策〈講義+WS〉...誘引物除去、追い払い、電柵の重要性
- ③個体数管理〈講義+WS〉...群れサイズ・加害度に応じた捕獲手法

65

一般社団法人ニホンザル管理協会

<https://sarukanri.jimdofree.com/>

G サルカン で検索



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates



山端 直人 (Naoto YAMABATA)

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授
前職の兵庫県農業研究所研究員のころから、兵庫県伊賀市でのサル群管理と地域主体の被害対策に関わり、伊賀市では全域でサル被害を大幅に削減することに成功した。被害を解決可能な地域の仕組みは、地域社会の種々の課題解決につながると思え、被害を軽減できる地域の体制や、それを支える地域政策の在り方を研究する。



鈴木 克哉 (Katsuya SUZUKI)

NPO法人聖地聖山問題研究所 (さともん) 代表理事
前職の兵庫県立大学/兵庫県森林動物研究センターでは、行政機関と連携して効果的なニホンザル被害管理手法を開発し住民支援体制を整備する。2015年に兵庫県丹波篠山市でさともんを設立し、確実な手法で「害」を軽減するとともに地域を活性化していく新しい「害がい」対策の普及を進めている。人材不足の自治体を民間団体として支援していく。



森光 由樹 (Yoshiki MORIMITSU)

兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授
獣医師の立場からニホンザルをはじめ、野生動物の保全や管理に必要な研究や技術開発を行っている。ニホンザルは発信機を装着して加害群の特定をすることで、効果的な個体数調整や位置情報の発信が可能となる。麻酔を用いた不動態化はそのための重要な技術であり、国内外で2000頭を超える霊長類の生体捕獲経験に基づき最新の技術を現場に提供する。



清野 純典 (Hironori SEINO)

株式会社野生動物保護管理事務所 取締役
多くの現場経験から「今、求められる技術は何か」を追求し、確実かつ効率的に成果をあげることをモットーに、ニホンザル個体数管理の手法開発やモニタリングをベースとした効果的な捕獲手法を実践。府県や市町村におけるサル対策の計画立案から現場実施まで総合的にサポートする。



清野 未恵子 (Mieko KIYONO)

神戸大学人間発達環境学研究所 准教授
高山村地域における人と野生動物との共存に関する研究を軸としながら、持続的な自然共生社会の構築やそうした社会を担う人材育成に関する研究を展開。ニホンザルの行動・生態に関する豊富な知見をベースに、地域活性化を見据えた幅広い視野で、問題解決やアイデア開発を促進するワークショップを数多く手がけている。

66



67

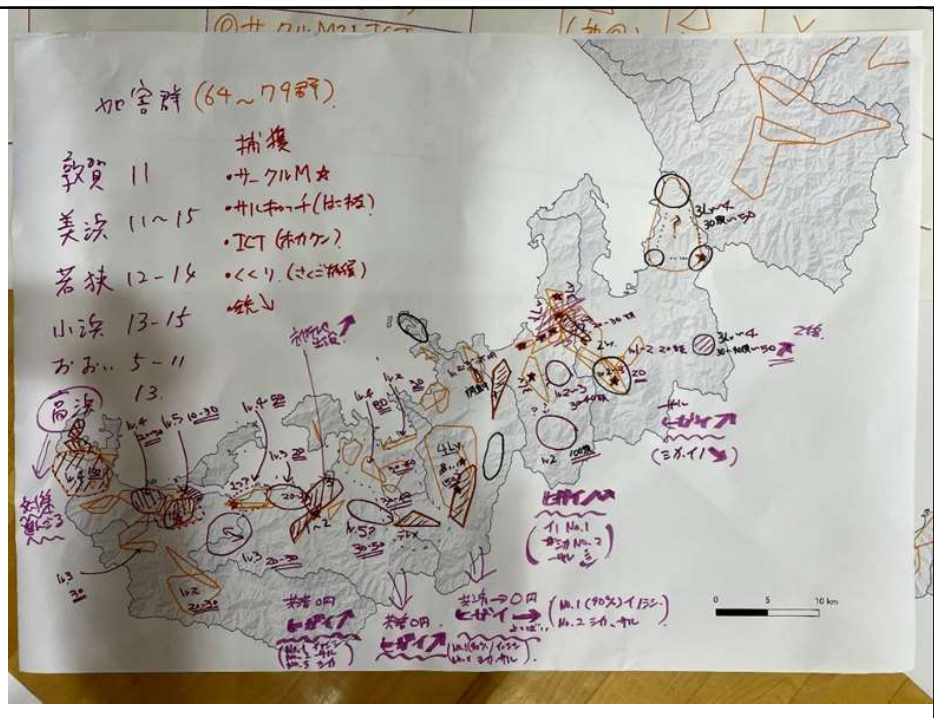


68

地域(管理ユニット)ごとに群れ分布状況の確認



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

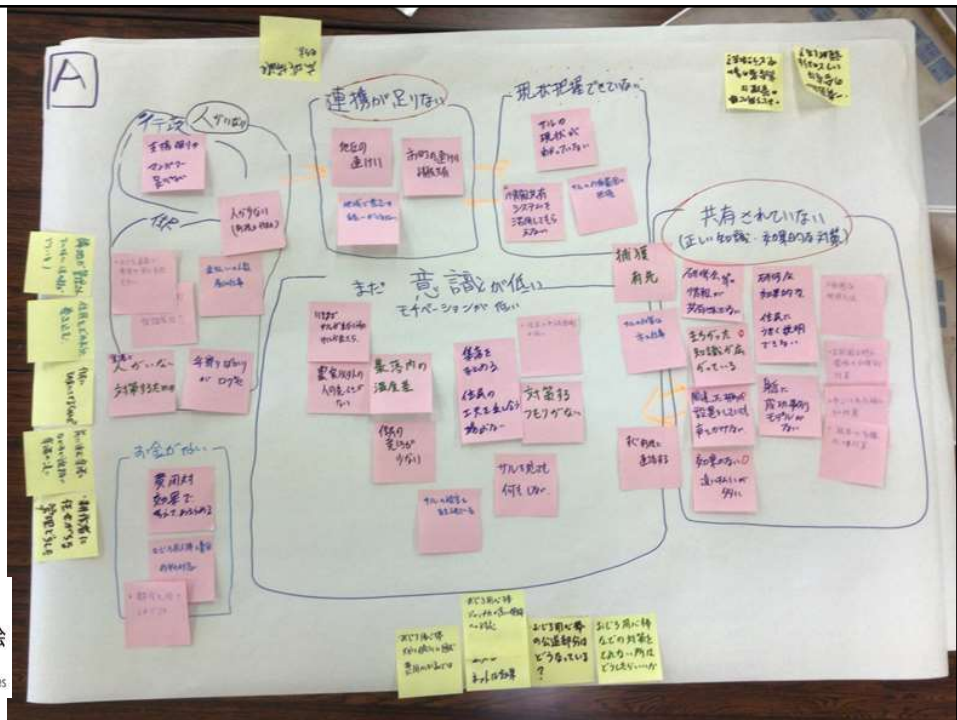


69

地域主体の対策を進めるうえでの課題を確認



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates



70

地域(管理ユニット)ごとに5カ年計画を策定

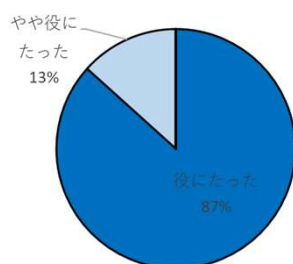
	2021	2022	2023	2024	2025
現状把握	テレメ リ 聞き取 り	確認調査			
計画		計画作成 予算要求	お金(補助)		
情報共有	県システムの紹介 市町間連絡会 今回の研修会 を 隔年開催 (★)		今回の研修会 を 隔年開催 (★)		今回の研修会 を 隔年開催 (★)
広報・研修	獣害カレッジ	HP 広報誌作 成 モデル募 集	マスコミ	マスコミ	マスコミ
研修		研修	モデル集落育成	モデル集落の波及支援	
意識向上		リーダー育成	集落内の連携	集落点検	



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

71

受講者の声 (市町担当者)



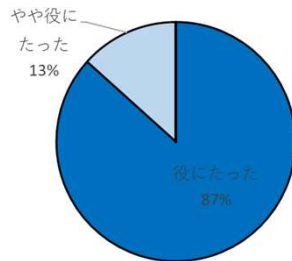
- 今まで全頭捕獲をすればいいと考えていたけれど、調査や計画を立てることの必要性をしっかりと知れた。
- 単年度では絶対に終わらせることができない取り組みであることは把握できたので、町や隣接市町、県、住民と協力して粘り強くがんばっていききたい。
- 各関係機関が連携していくために、情報の共有、研修の機会を作っていけたらと思います。



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

72

受講者の声 (県担当者)



- 県内の市町の参加者と現状の話をする中で、県内のサル被害、サル対策の状況がわかった。サルの生態、捕獲について学習することができた。行政担当者が集まってゆるく話し合うという場に参加したことがなく、県が一方的に決まったことを説明する会議にしか参加したことがなかった。同じテーブルである程度本音でお話をする、聞ける機会ができてよかった。他の課題にも応用できると思う。
- とにかく各市町さんの現状把握として、今回のようなワークショップを継続して行いたい。各担当とのコミュニケーションがスムーズになると同時に、県として何をすればいいかも分かりやすくなるメリットがある。

73

番号	平均値		(n) ペア数
	事前	事後	
Q1-1	3.00	4.04	24
Q1-2	3.29	3.38	24
Q1-3	2.33	3.46	24
Q1-4	2.60	3.92	25
Q1-5	2.92	3.79	24
Q1-6	2.96	4.20	25
Q1-7	2.92	3.48	25
Q1-8	2.55	4.09	22



一般社団法人
ニホンザル管理協会

Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

【事前（第1回開始前）】		
番号	質問内容	回答方法
Q1	あなたの、今のニホンザル管理や対策推進についての状況や理解度を教えてください。	5段階評価
1	ニホンザルの生態や行動特性を理解できている	
2	自分の管内のサルの分布や捕獲・対策の状況を理解している	
3	隣接市町のサルの分布や捕獲・対策の状況を理解している	
4	サルの個体数管理の方法論を理解できている	
5	サルの被害を効果的に軽減できる方法を理解している	
6	ユニット管理（広域連携）の重要性を理解している	
7	管内のサルの管理や対策を進めるための計画や方針がある	
8	現在の特定計画は有効な計画になっていると思う	
Q2	今抱えている悩みや課題を教えてください。	自由記述
Q3	この研修会を受けるにあたっての意気込みや研修会に期待することを教えてください。	
【事後（第3回終了時）】		
番号	質問内容	回答方法
Q1	あなたの、今のニホンザル管理や対策推進についての状況や理解度を教えてください。	5段階評価
1	ニホンザルの生態や行動特性を理解できている	
2	自分の管内のサルの分布や捕獲・対策の状況を理解している	
3	隣接市町のサルの分布や捕獲・対策の状況を理解している	
4	サルの個体数管理の方法論を理解できている	
5	サルの被害を効果的に軽減できる方法を理解している	
6	ユニット管理（広域連携）の重要性を理解している	
7	サル管理や対策を進める計画や方針を作成できる自信がついた	
8	次期の特定計画に対する重要性や期待感を感じる	
Q2	あなたにとってのサル対策業務の重要度を教えてください	自由記述
Q3	今回の研修会はあなたのサル対策業務の役に立ちましたか	
Q3	Q3で回答したその理由を具体的に（いくつでも）教えてください	
Q4	今後のサル対策への意気込みや県に期待することを教えてください	



74

企画者（県庁担当者）



企画のきっかけとなったのが
（一社）ニホンザル管理協会が
主催したサル対策集中セミ
ナーへの参加



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

- 自分自身も研修に参加して**特定鳥獣管理計画を策定することの本当の意味を理解したが、市町や県出先機関の担当者も、県からの押し付けでなく、被害を軽減するためには連携した対策と、そのための後ろ盾として各スケールでの計画策定が必要なのだと感じてもらったのであれば幸いである。**
- **この研修で全関係機関がスタートラインに立てたと思うので、今後ユニット単位での会議や地域実施計画の策定を次期特定計画に盛り込む方向で具体的な協議を進めたい。**

75

一般社団法人ニホンザル管理協会の研修事業

 サルカン 集中セミナー で検索

一般社団法人ニホンザル管理協会（サルカン）
現場で学ぶ！サルカン2021集中セミナー
『3日でマスター！サル対策を効果的に進めるために行政担当者に知ってほしい知識と技術』
～サル対策3ヵ年計画と実行プランを持ち帰ろう～

2021年10月18日（月）～20日（水）
会場：丹波篠山市神戸大学フィールドステーション・ほか市内現場
※新型コロナウイルス感染症対策として少人数に制限しての開催とします。今後の感染拡大の状況によっては、セミナー中止・内容変更となる可能性があります。
※学生のオブザーバー参加は無料（人数制限あり。希望者多数の場合は書類選考いたします）

参加費
66,000円
(税込)

今すぐ申し込む



一般社団法人
ニホンザル管理協会
Association for Conservation and
Management of nonhuman Primates

76

まとめ

1. 捕獲計画（方針）と実績を明示しながら
2. 住民主体の対策を支援する
（市町村の役割・都府県の役割）

地域実施計画（地域条件にあわせて）

捕獲計画

- 群れ数の把握
- 発信器の装着
- 個体数の把握
- 加害レベルの把握
- 捕獲方針・目標の策定
- 捕獲手法の選択
- 捕獲実績の共有

対策普及計画

- 普及計画の策定
 - 研修会企画・実施
 - モデル圃場での実証
 - モデル集落での実証
 - 希望集落への指導
- 群れ位置情報の共有化
- 集落間連携の促進、広域連携
- 地域リーダー等人材育成
- 地域活性化モデルの育成

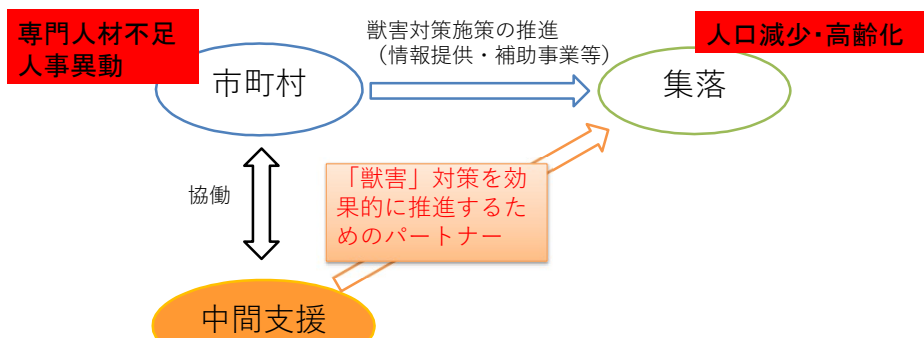


特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

77

課題：誰が対策を進めるのか？

市町村の役割は大きいですが、専門的な知識・人材がない



市町村域の効率的な普及戦略を考える・
進めるためのパートナーを見つける

（県・研究機関・大学・実施隊・民間団体など…）



特定非営利活動法人
里地里山問題研究所

78

ご清聴ありがとうございました